

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第80号
令和6年12月3日

～ ふくしまの復興再生を願い、今、私たちが伝えたいこと！ ～

第46回少年の主張福島県大会

開催期日 令和6年9月26日(木) 場所 川俣町中央公民館

「少年の主張」は、たくさんの夢や希望を抱いている中学生が、日常生活で感じ、あるいは考えていることをまとめ主張することで、広く社会に目を向ける機会を提供すると共に、大人の青少年への理解を高めることをねらいとして実施しています。

この取組は、国際児童年(1979年)を契機にはじめられ、福島県大会は、今回で46回目を迎えました。毎年多くの中学生が参加していますが、今年度も県内10,389人(165校)の中学生から応募がありました。

最優秀賞

会津若松市立第一中学校 3年 林 胡桃実 美しい会津を未来に残すためにも

優 秀 賞

須賀川市立小塩江中学校 3年 吉田 陽稀 僕のかげがえのない宝物
会津若松市立第五中学校 3年 佐藤 羽音 もしも認知症になったとしても
会津若松市立大戸中学校 2年 小山 司 YKK を変える
喜多方市立山都中学校 3年 日下 碧人 社会を変える「不利益」
相馬市立中村第二中学校 3年 竹島 灯 心のバリアをなくして

優 良 賞

田村市立常葉中学校 3年 藤田 夏心 十人十色
喜多方市立第一中学校 3年 新国 陽士 母が災害支援に行ったことで考えたこと
川俣町立川俣中学校 3年 松本 心 「みんなのため」の未来へ
相馬市立向陽中学校 3年 小迫 はるひ 「私」を愛す
棚倉町立棚倉中学校 1年 和知 恒太郎 僕たちの政治
南会津町立田島中学校 3年 金井 音也 僕が始めた「ナルシスト計画」
白河市立表郷中学校 3年 生田目 琴乃 フランスから見た日本
二本松市立小浜中学校 3年 佐藤 星華 「伝統をつないでいく」とは
いわき市立平第一中学校 3年 大和田 心菜 大切な人のために
田村市立大越中学校 3年 猪狩 颯太 雑草から見える田村市の未来

美しい会津を未来に残すためにも

会津若松市立第一中学校 三年 林 胡桃実



「福島県がワースト一位」

部活動でたくさんになって帰った私の耳に飛び込んできたショッキングな順位は、ゴミ問題について話すテレビニュースの声でした。そして、続いて「自治体の中では会津若松市がワースト四位です。」という耳を疑いたくなる順位が出されました。あまりの驚きに、カバンを背負ったままテレビに見入る私の傍では、母が納豆の容器を手にして、「これは資源ゴミなんだから、洗って資源にしてよね。」「牛乳パックだって洗って開けば資源ゴミで出せるんだよ。」と、ゴミ箱を見て怒鳴っていました。「このままだと、ゴミが有料になるんだから、気を付けてよね。」とも。

なんと会津若松市が『ゴミ緊急事態』を宣言し、来年一月をめどにゴミ処理の有料化を検討することになったというのです。母の剣幕に、「そうなんだ。」と思いながら我が家のゴミを見直すと、納豆のパックや包装用のビニールや、ヨーグルトの容器などが見つかり、ゴミ全体の四分の一は資源ゴミでした。それから、見終わったプリント類も重ねてまとめたら、リサイクルできるし、洋服などもリサイクルショップ等に持っていけば、再生できるのだと改めて思いました。

我が家は両親と祖父母と姉と私の六人家族ですが、ある日曜日に出したゴミだけで、45 リットルのゴミ袋の三分の一もあり、重さを量ってみると3.8 kgほどありました。そして、その中763gが資源でした。学級のゴミから想像しても、これは我が家だけの問題ではなく、会津若松市全体で考えると、家庭から出るゴミは毎日、16トン近くを減らせるのではないのでしょうか。あとは、街中に捨ててあるゴミを分別すれば、目標の16トンの減量を達成させられるのではないかと考えました。そこで、我が家の一番近くの公園に落ちているゴミを拾ってみました。重さは全体で約1.8kgで、そこからペットボトルなどのプラスチックゴミを分別したら、約1.4kgが資源になりました。会津若松市内にある公園の数は20ヶ所だとしても28kgにはなるはずです。

二年後から使われる予定のゴミ処理施設に合わせてゴミの量を減らす必要があるのなら、それに見合う努力を、みんなでするべきだと思います。

そのために、我が家では、ゴミと資源との分別を注意し合うことにしました。忙しくても面倒くさくても、資源に回せる物は軽く水洗いをしてから資源回収用の箱に入れるように家族みんなで声を掛け合っています。きちんと分けられない家族に対して注意する私をあきれたような目で見ていた父や姉も今では積極的に分別しています。面倒なことも習慣づければ当たり前になるようになることも、今回のことで立証された気がします。

公園のゴミについてはしばらくの間は、友人たちとボランティア活動をしようと相談しています。始めてからまだそんなに経っていませんが、毎週日曜日に掃除をしていたら、最近ではゴミが減ってきました。人はきれいなところは汚さないようにするのもかもしれません。

私も今回のニュースで初めて知ったのですが、焼却炉のことを知らない人はたくさんいると思います。現状や課題について、市民みんなにしっかりと伝われば、もっと本気でゴミの削減に協力してくれる人が増えると思います。何せここは「観光地会津」の中心なのですから。

私は、鶴ヶ城のお膝元の住民として、誇りと責任を持って努力できるようにもっと周りに呼びかけていきます。学校やご近所など、身近なところから大きな削減の輪を広げていきます。

みなさん、私たちのふるさと会津を、私たちの手で、ゴミのない美しい街にして、未来に残しましょう。

～令和6年度「家庭の日」作品募集～

6月16日から9月4日にかけて、小学生、中学生及び高校生を対象に「家庭の日」作文作品、絵画・ポスター作品を募集したところ、作文部門1,210点、絵画・ポスター部門198点(絵画170点、ポスター28点)の応募がありました。

本年度は、昨年度に比べて中学生は作文応募は増加しましたが、ポスターの応募は減少しました。逆に小学生は作文の応募は減少しましたが、絵画の応募は増加しました。また、数年ぶりに高校生のポスター応募もありました。作文の部は第三次審査会、絵画・ポスターの部は第二次審査会を実施し、入賞作品を選者しました。作文、絵画・ポスター合わせて、最優秀賞8点、優秀賞18点、優良賞29点を決定しました。

最優秀賞受賞者には、11月22日(金)に開催された「令和6年度福島県青少年健全育成推進大会」の席上で福島県副知事から賞状と副賞が授与されました。

なお、最優秀賞の作文・絵画・ポスター作品、並びに優秀賞の絵画・ポスター作品は福島県青少年会館2階に展示しています。

<令和6年度「家庭の日」作品 「最優秀賞」受賞者一覧>

作文部門

塚原 弥	小1	西会津町立西会津小学校	ぼくんちのゆうはん
菅野 瑠伊	小3	須賀川市立第二小学校	ひいばあちゃんの生活
須藤 美月	小5	玉川村立玉川第一小学校	がんばれ、お父さん
坂神 怜花	中3	いわき市立小名浜第一中学校	じいちゃんの石

絵画・ポスター部門

(絵画作品)

佐藤 柚樹	小2	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	みんなで食事するって楽しいな
菊池 蓉子	小5	西郷村立熊倉小学校	畑で取れたあまくて大きなとうもろこし

(ポスター作品)

川又 六花	中2	西郷村立西郷第一中学校	食卓を囲もう家庭の日
渡邊 由香	高1	福島県立福島西高等学校	紡ぐ家庭の日

作品介绍 作文部門（5・6年の部） 最優秀賞

がんばれ、お父さん

玉川村立玉川第一小学校 五年 須藤 美月



県青少年健全育成推進大会での発表

ツナ、シャケ、すじこなどおにぎりの種類はたくさんある。どれもおいしくていつも選ぶのにまよっちゃうけれど、私のナンバーワンはやっぱり塩おにぎりだ。お米のあまさと塩のしょっぱさがまざって、最高。シンプルだけど、毎日食べてもあきないし、パワーがでる。おにぎりって本当にすごい。私の家で食べているお米は、祖父母が作ったものだ。今年からは父も加わって、お米作りをしている。昨年までも、田植えや稲かりの時期には手伝っていたが、今年は田んぼの周りの草かりや水の管理など、細かい仕事も祖父に教えてもらいながら取り組んでいる。今は毎日暑い中で草かりをしているそうだ。

「つかれた。」と、真っ黒に日焼けしてあせたくで帰ってきた父。そんな父に何かできる事はないかと思った私は、妹とお昼ごはんに父の好きな梅おにぎりを作った。はじめは三角形にしようとしたが、上手にできずにやめた。母のようにきれいではないけれど、ありがたいの気持ちでたっぷりこめてにぎった私のおにぎりは、おっきくてたわら型。妹のはちっちゃくてボール型。おたがいにそのおにぎりをみてふきだした。

「お父さん、これ食べたら元気モリモリになっちゃうね。」と母が言って、そうだといいなと私は思った。父が食べているすがたをドキドキしながら見ていると、「おいしい。」と言って喜んでくれたのでとてもうれしかった。

私は毎年、春の種まきの時に手伝いに行っている。もみをまく箱をローラーの上にならべる仕事が私の担当だ。山積みになっている箱は、ならべてもならべてもなかなかへらずと中でつかれてやめてしまいたくなる時が何度もあった。種まきはお米作りのほんの一部。お米が食べられるようになるまでは、たくさんの時間と手間がかかるのだ。だから、米つぶ一つ一つには神様がいらると言われているのだと思った。私は父や祖父母のすがたを見てお米づくの大変さを知り、心をこめて育てたお米を残さず大事に食べなくちゃと改めて強く思った。

今、日本ではお米が不足しているとニュースでやっていた。お店に行ってもなかなか買えないらしい。お米は、家にあってあたり前だと思っていた私には、おどろきのニュースだった。また、お米農家もへっていると聞いた。そんな中、お米作りをやろうと決心した父はすごい、かっこいいと思った。

父が作ったお米が全国に届けられ、そのお米を食べた人がおいしいと笑顔になってくれたら、とってもすてきな事だと思う。私も少しでも力になれるようにがんばりたい。

【連絡・問い合わせ先】

住所 〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53-5(福島県青少年会館内)
TEL 024-546-0002 FAX 024-546-8312
E-mail f-kenminkaigi@fukushima-youth.com/
HP アドレス <http://www.fukushima-youth.com/>